

# 内津川(庄内川支流、春日井市)の鳥類群集の周年観察

\* 原田隼太郎・村上哲生 (中部大学・応用生物学部)

## 1. はじめに

河川の形状により、河川内にみられる鳥の種類組成は異なり、水際から堤防までの陸地横断距離 (鈴木, 2009) や、河川の開放性 (金森・倉本, 2019) が重要な要素となるとされてきた。また、河川形状と共に、季節ごとに異なる人の干渉も、都市部の河川では無視できない要素となる。

本研究は、内津川 (庄内川支川) の周年観察により記録された鳥類の種類組成の季節ごとの変化を明らかにし、河川の形状と、河川工事や人為的な水位の変化が鳥類相にどのような影響を及ぼすのかを報告するものである。

## 2. 方法

2018年11月24日から2019年11月23日の約1年間、毎週土曜日にラインセンサス法で地点Aから地点Bまで河川内にみられる鳥をすべて記録した (図1)。

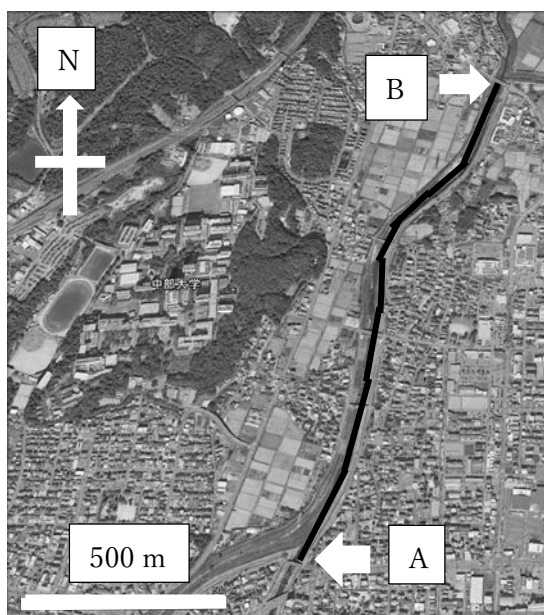


図1. 調査区域

GoogleEarthより

## 3. 結果及び考察

期間中に確認できた鳥類は、21種 (水鳥は、サギ科3種、セキレイ科3種、ウ科、カモ科、カワセミ科、ケリ科は各1種) であった。

水位は、水鳥の分布を制御する重要な要素であると思われる (図2)。セキレイ類は、平水時は、水面より上に出た河床ブロックを利用している。灌漑期の堰操作により、湛水が始まると河床ブロックや浅瀬が水没するため低水敷では見られなくなる。一方、サギ類は堰の上下流部に集合する魚類を狩るため、堰周辺に集まる傾向が見られた。

また、河川工事による土盛り等により水位が浅くなると、本来河川敷では見られなかったケリやカラスも河川敷に侵入する現象も認められた。



図2. 堰による水位操作

(左: 閉門時、右: 開門時)

## 4. 引用文献

金森充晃・倉本宣 (2019): 都市の中小河川の河川横断構造が水鳥の個体数及び多様度に与える影響. 野生生物と社会, 6: 3-11.

鈴木弘之 (2009): 河川における人為影響を含む環境要素が鳥類群集に及ぼす影響の解析—鳥類群集を指標として河川環境を保全するために—. 景観生態学, 13: 55-69.